

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 3 月 22 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21500616

研究課題名（和文） 外国人旅行者を魅了するスポーツ・ツーリズムの観光資源に関する調査研究

研究課題名（英文） An empirical research on the tourist attractions of the sport tourism which attracts foreign visitors

研究代表者

二宮 浩彰（NINOMIYA HIROAKI）

同志社大学・スポーツ健康科学部・教授

研究者番号：50284782

研究成果の概要（和文）：本研究は、北海道のスポーツ・ツーリズム動態を把握した上で、外国人旅行者を魅了するスポーツ・ツーリズムの観光資源を探るための調査研究を実施することを目的とした。北海道におけるスポーツ・ツーリズムの観光資源を目当てに訪日しているヨーロッパ、北米、アジア、オセアニアからのインバウンド外国人旅行者に焦点を当てることにした。北海道ニセコ地域の訪日外国人スポーツ・ツーリストを調査対象として、スキー／スノーボードの参加と経験、技能と知識、用具と投資、ライフスタイル、スキー／スノーボード旅行の選好、ニセコリゾートへの地域愛着、個人属性について、英語／中国語による質問紙調査を実施してデータを収集した。結果として、外国人スキーヤー&スノーボーダーのスポーツ・ツーリスト行動の実態を明らかにすることができた。そして、ニセコ地域の現状についての聞き取り調査を行い、外国人スキーヤー&スノーボーダーの来訪動向と現地調査の研究成果との検証を行った。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this research is to conduct investigation for exploring the tourist attractions of the sport tourism which grasps the sport tourism dynamic state of Hokkaido and attracts foreign visitors. It focused on the inbound foreign visitors from Europe, North America, Asia, and Oceania who has visited Japan as a guide in the tourist attractions of the sport tourism in Hokkaido. The visit-to-Japan foreigner sport tourist of the Hokkaido Niseko area was made applicable to investigation. Data was collected using the questionnaire in English/Chinese about participation of skiing/snowboard, skill and knowledge, equipment and investment, lifestyle, preference of skiing / snowboard travel, place attachment to the Niseko resort, and individual attribute. As a result, the realities of sport tourist behavior of foreign skiers & snowboarders were found. And it investigated by hearing about the present state of the Niseko area. This research performed verification with the visit trend of foreign skiers & snowboarders and the result of a field survey.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	1,800,000	540,000	2,340,000
年度			
年度			
総計	3,100,000	930,000	4,030,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学・スポーツ科学

キーワード：スポーツ・ツーリズム、訪日外国人、スキー／スノーボード、
コンジョイント分析

1. 研究開始当初の背景

ニセコリゾートは、北海道・道央地区の西部に位置し、東に国立公園羊蹄山(1,898m)、北に国立公園ニセコアンヌプリ(1,309m)の山岳に囲まれた丘陵盆地である(ニセコリゾート観光協会, 2011)。1961年にニセコひらふスキー場(現 グラン・ヒラフスキー場)に初のリフトが設置されて以来、周辺地域でスキー場の開発が進み、スキーリゾートへと発展を遂げている。50周年を迎えたグラン・ヒラフのスキー場は、スキーヤーやスノーボーダーを惹きつけるパウダースノーが体験できることが評判となり、2002年頃を境にオーストラリアやニュージーランドからの訪問者が急増するようになり、宿泊施設、レストラン、温泉などの施設も充実していることから東アジアからの訪問者も増加し、ニセコは世界的なスキーリゾートとして人気を集めるようになった(ニセコプロモーションボード, 2011)。

2. 研究の目的

本研究の目的は次のとおりである。

- (1) 北海道版スポーツ・ツーリズムの動的モデルを構築し、その動態について把握する。
- (2) 北海道におけるインバウンド外国人スポーツ・ツーリストの実態を明らかにする。
- (3) スポーツ・ツーリスト行動のコンジョイント分析を行い選好構造について解明する。

以上のことから、本研究では、北海道におけるスポーツ・ツーリズム動態を理解した上で、外国人旅行者を魅了するスポーツ・ツーリズムの観光資源について検討することにした。

本調査では、ニセコリゾートにおける訪日外国人スキーヤー&スノーボーダーのスポーツ・ツーリスト行動について明らかにすることを目的とした。ニセコリゾートにおけるスキーヤー&スノーボーダーの実態を明らかにすることで、訪日外国人スポーツ・ツーリストを集客するためのマーケティング基礎資料として役立てることを目指している。

3. 調査研究の方法

(1) データ収集

本研究では、北海道ニセコリゾートを訪問している外国人スキーヤー&スノーボーダーを対象として、質問紙を用いた調査を実施することによってデータを収集した。調査期間は、2011年3月6日(日)、7日(月)、8日(火)の3日間に設定した。グラン・ヒラ

フスキー場内の3ヶ所のレストランにおいて、調査員が外国人スキーヤー&スノーボーダーに対して調査の協力を依頼し、了承が得られた外国人に英語または中国語の調査票を手渡し、その場での回答を求めて285部の調査票を回収した。

(2) コンジョイント分析の手順

コンジョイント分析は、複数の要因(属性)が組み合わせられた対象物(プロファイル)に対する選好順序データを測定し、それらの順序関係が保持されるように、各属性および諸属性の具体的条件(水準)に対する選好度(属性重要度および部分効用値)を推定する手法である。本研究のコンジョイント分析においては、IBM製の統計パッケージPASW Statistics Conjoint 18を使用して、以下のような手続きを取った。

(3) 属性と水準の設定

属性の設定については、レジャー・スポーツ行動の研究分野において参加者の選好行動を取り上げた先行研究を参考にして、「雪質」(ふつう; 良い; すばらしい)、「リフト代(8時間)」(¥4,300; ¥4,900; ¥5,500)、「ゲレンデでの遭遇」(少ないスキーヤー/少ないボーダー; 少ないスキーヤー/多いボーダー; 多いスキーヤー/少ないボーダー; 多いスキーヤー/多いボーダー)、「アフタースキー」(すばらしい宿泊施設; すばらしいレストラン; すばらしいパブ/バー; すばらしい温泉)といった4属性を取り上げて水準を設定した。

(4) プロファイルの作成

プロファイルは、設定した属性の各水準を組み合わせることによって作成する。本研究では、回答者の負担を軽減するために、直交計画に基づいて生成された16種類のプロファイルを抽出して採用した。

(5) 順序データの収集

本研究では、仮想的なスキー/スノーボード旅行プランを示した16種類のプロファイルを回答者に提示し、1点から10点までの評定尺度によって測定を行った。収集されたデータは、それぞれのプロファイルについて回答者が評価した得点によって、各プロファイルに対する好ましい順位が決められ、分析において順序データとして扱われる。

(6) 部分効用値の推定

コンジョイント分析では、順序データから属性水準に付与されている部分効用値を推定するためのアルゴリズムが用いられる。本研究では、コンジョイント・モデルの最小二乗法を用いて部分効用値を推定した。

(7) 相対重要度の算出

属性の相対重要度は、各属性の部分効用値のレンジを計算し、それらを全属性のレンジの総和で除することにより求めることができる。

4. 研究成果

(1) サンプルの個人属性

調査対象となったサンプルの個人属性は、次のとおりである。性別では、スキーヤーは6割以上が男性で4割弱が女性であり、スノーボーダーは7割以上が男性で3割弱が女性であった。スキーヤーよりもスノーボーダーの方が男性の比率が高くなっている。年代については、スキーヤーは50歳代(28.2%)、30歳代(26.4%)、40歳代(23.6%)の順で多くなっているが、スノーボーダーは30歳代が半数近く(46.9%)でもっとも多く20歳代(24.3%)、40歳代(20.4%)と続いている。スキーヤーと比べてスノーボーダーの方が若い世代が参加している傾向がみられた。職業では、スキーヤー、スノーボーダーともに専門職が4割以上でもっとも多く、続いて経営者、技術職が多くなっている。年収については、\$100,000以上の高収入者の割合が高く、裕福な客層であることがうかがえる。

(2) 参加者の行動特性

スキーヤーとスノーボーダーの行動特性は次のとおりである。スキーヤーの経験年数は20年以上が半数以上を占め、10~19年(22.5%)を合わせると10年以上の経験年数を有する者が75.7%と高い割合となる。スノーボーダーの経験年数は、10~19年(36.5%)がもっとも多く20年以上(14.6%)を含めると10年以上の経験年数を有する者が半数以上を占めるが、1~3年(20.8%)と4~6年(24.0%)の経験が浅い者の割合も多くなっている。

2010-2011シーズンのスキー/スノーボードの参加日数では、スキーヤーは半数以上が20日以上(53.2%)であり、スノーボーダーは10~19日が36.5%でもっとも多く20日以上が14.6%となっており、半数以上のスキーヤー&スノーボーダーが10日以上 of 長期間となっている。過去5年間のスキー/スノーボード旅行日数については、10~49日の滞在者がスキーヤー、スノーボーダーともにもっとも多くなっており、50日以上 of 長期滞在者

も高い割合となっている。

スキー/スノーボードの技術レベルでは、スキーヤーは半数以上が上級者・熟練者であり中級者が4割以上となっているが、スノーボーダーは半数以上が中級者であり上級者・熟練者が3割以上となっており、スノーボーダーよりもスキーヤーの方が高い傾向にある。

過去5年間のスキー/スノーボード用具の支出額については、スキーヤー&スノーボーダーともに\$999以下がそれぞれ45.8%、37.2%ともっとも多くなっており、用具への投資をすることがあまりないことわかる。

2010-2011年シーズンのスキー/スノーボード関連の支出額(用具代、旅費、宿泊費)では、スキーヤーは\$5,000以上が38.2%でもっとも多く\$2,000~\$4,999が34.5%と続き、スノーボーダーは\$2,000~\$4,999が49.0%でもっとも多く\$5,000以上が29.2%となっており、スノーボーダーよりもスキーヤーの方が高額になっていることがうかがえる。

(3) スキー/スノーボード旅行の選好構造

コンジョイント分析による結果では、スキー/スノーボード旅行の選好をめぐるスポーツ・ツーリスト行動について分析していく。図1~図6には、スキー/スノーボード旅行の条件に対する相対重要度、および各条件の水準設定についての部分効用値といったスキーヤー&スノーボーダーの旅行に対する選好構造を示した。

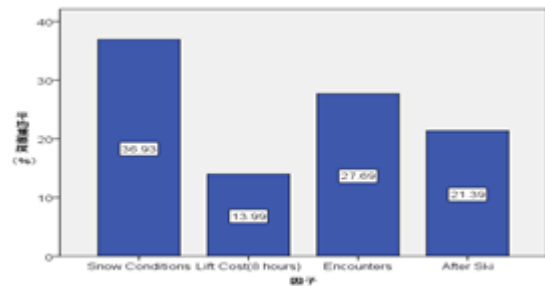


図1 スキーヤーの属性に対する重要度

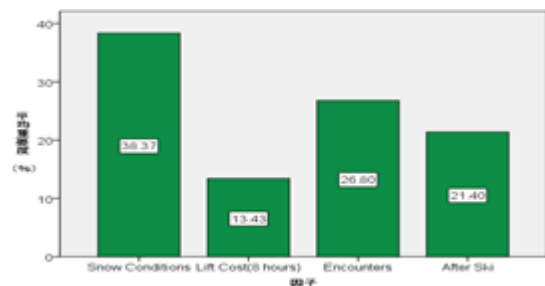


図2 スノーボーダーの属性に対する重要度

はじめに、スキー／スノーボード旅行をする場合に考慮する条件として、各属性に対する重要度についてみていく。スキーヤー、スノーボーダーともにもっとも重要視された条件は、雪質（スキーヤー：36.928%，ボーダー：38.366%）であり、すばらしい雪質という条件が好まれている。次に重要視された条件は、ゲレンデでの遭遇（スキーヤー：27.694%，ボーダー：26.805%）であり、スキーヤー／スノーボーダーが多いことが嫌がられている。続いてアフタースキー（スキーヤー：21.389%，ボーダー：21.403%）が重要視されており、すばらしい宿泊施設に泊まることを望まれている。リフト料金（スキーヤー：13.989%，ボーダー：13.426%）はあまり重要視されておらず、価格が変動することにあまり反応が示されなかった。

スキーヤーとスノーボーダーの旅行に対する選好構造をみていくと、雪質については、両者ともに「すばらしい雪質」（スキーヤー：1.380，ボーダー：1.345）であることに大きな魅力を感じており、「良い雪質」（スキーヤー：-.254，ボーダー：-.145）や「ふつうの雪質」（スキーヤー：-1.126，ボーダー：1.200）になると好ましく思われていないことがわかる。

リフト代では、8時間券の料金が現状の4,300円が値上げされた場合に利用者がどれくらい反応するのかについて分析している。スキーヤーは、リフト代が4,300円（.175）から4,900円（.165）になってもほとんど気にならないが、5,500円（-.340）に値上げされると抵抗感が出てくるようである。スノーボーダーは、リフト代が4,300円（.217）から4,900円（.053）に値上げされるとやや気になり、5,500円（-.270）になると抵抗感があるようである。

ゲレンデでの遭遇については、両者ともに「多くのスキーヤー／多くのボーダー」（スキーヤー：-.562，ボーダー：-.681）がいて混雑している状況を嫌がっている。スキーヤーは、「少ないスキーヤー／少ないボーダー」（.704）をもっとも好ましく思う傾向にあり、ゲレンデ内が「多くのスキーヤー／少ないボーダー」（.052）という状況を好み、「少ないスキーヤー／多くのボーダー」（-.194）を嫌がっている。スノーボーダーは、「多くのスキーヤー／少ないボーダー」（-.267）を嫌がっているが、「少ないスキーヤー／少ないボーダー」（.439）という状況よりもむしろ「少ないスキーヤー／多いボーダー」（.509）を好ましく思っており、同じボーダーがゲレンデにいることを好ましく思っている。

アフタースキーでは、両者ともに「すばらしい宿泊施設」（スキーヤー：.264，ボーダー：.283）に泊まることを最優先であり、「すばらしいレストラン」（スキーヤー：.088、

ボーダー：.025）で食べることが好ましく、「すばらしいパブ／バー」（スキーヤー：-.174，ボーダー：-.014）で楽しむことや「すばらしい温泉」（スキーヤー：-.178，ボーダー：-.293）につかることは二次のようである。

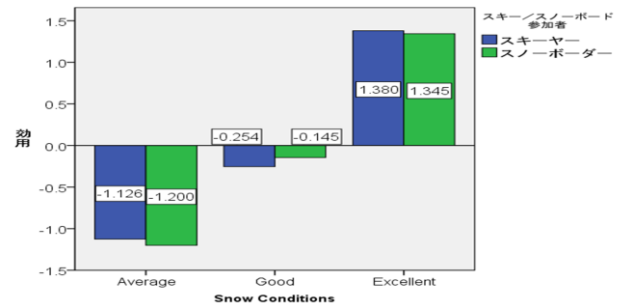


図3 スキーヤー／スノーボーダーの雪質の効用値

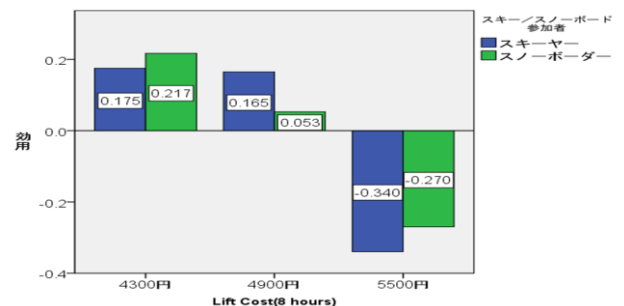


図4 スキーヤー／スノーボーダーのリフト代の効用値

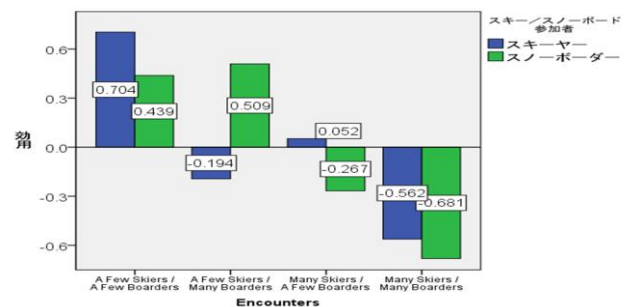


図5 スキーヤー／スノーボーダーのゲレンデでの遭遇の効用値

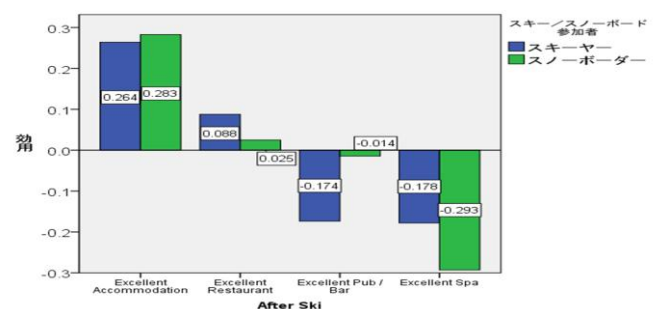


図6 スキーヤー／スノーボーダーのアフタースキーの効用値

以上のように、本研究では、ニセコリゾートを訪問している外国人スキーヤー&スノーボーダーのスポーツ・ツーリスト行動について明らかにすることを目的とした。スキー/スノーボード旅行をする場合にどういった条件を考慮するのかを探るため、4つの属性を設定してコンジョイント分析を行った。その結果、スキーヤー、スノーボーダーともに「雪質」をもっとも重要視し、続いて「ゲレンデでの遭遇」「アフタースキー」「リフト料金」という順となっている。このことからスキーヤーとスノーボーダーは、スポーツ・ツーリストとして同じスキー/スノーボード旅行の条件を重要視することがわかる。

スキー/スノーボード旅行の選好構造についても、各属性に設定された水準に対して「雪質」「アフタースキー」「リフト料金」についてはスキーヤー、スノーボーダーが同じような反応を示した。ところが、「ゲレンデでの遭遇」では、スキーヤーは混雑を避ける傾向にあるが、スノーボーダーは同じボーダーがゲレンデにいることを望んでいることが明らかとなった。

このようなコンジョイント分析を適用したスポーツ・ツーリスト行動の研究成果は、スキーヤー&スノーボーダーの選好行動を把握することができることから、スキー場の環境づくり、施設整備、価格設定といったマネジメントに役立つ基礎資料となるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計4件)

- ① Nobuhiro Ishizawa, Hiroaki Ninomiya, Yasuhiro Kudo, Behavioral Characteristics of Foreign Tourists in Niseko Winter Sport Resort, World Congress for the Sociology of Sport 2011(in Havana International Conference Center, Cuba), No.0227.
- ② 石澤伸弘・二宮浩彰・工藤康宏, 北海道ニセコリゾート外国人スキーヤー&スノーボーダー調査研究Ⅰ: スポーツ・ツーリストの行動様式分析, 日本体育学会第62回大会(於: 鹿屋体育大学), 体育社会学専門分科会発表論文集第19号 pp. 233-238.
- ③ 工藤康宏・二宮浩彰・石澤伸弘, 北海道ニセコリゾート外国人スキーヤー&スノーボーダー調査研究Ⅱ: スポーツ・ツーリストの専門志向化と旅行日数に着目して, 日本体育学会第62回大会(於:

鹿屋体育大学), 体育社会学専門分科会発表論文集第19号 pp. 239-244.

- ④ 二宮浩彰・工藤康宏・石澤伸弘, 北海道ニセコリゾート外国人スキーヤー&スノーボーダー調査研究Ⅲ: スポーツ・ツーリスト行動のコンジョイント分析, 日本体育学会第62回大会(於: 鹿屋体育大学), 体育社会学専門分科会発表論文集第19号 pp. 245-250.

〔その他〕

ホームページ

<http://hninomiy.doshisha.ac.jp/research.html>

<http://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/search/researcher/108026/index-j.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

二宮 浩彰 (NINOMIYA HIROAKI)

同志社大学・スポーツ健康科学部・教授

研究者番号: 50284782

(2) 研究分担者

工藤 康宏 (KUDO YASUHIRO)

順天堂大学・スポーツ健康科学部・准教授

研究者番号: 30410864

(3) 連携研究者

石澤 伸弘 (ISHIZAWA NOBUHIRO)

北海道教育大学岩見沢校・スポーツ教育課程・准教授

研究者番号: 60368553